京城新報

●新聞料 ▲一ヶ月前金四十五錢●三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月金拾參錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰曆 四月六日
發行兼編輯人 印刷人 秋山忠三郎
京城西署西小門通 發行所 京城新報社 電話六六三番

再び統監政治に就て

森本幹夫

論議するものをして徒らに論議せしむる勿れ今は實行の時期なり、彼等は正に爲すべきの時期なるを知らざるか、何を以て我が國光を宣揚せんとするものぞ、何を以て韓國を經營せんとするものぞ、夫れ經營は現實ならざる可からず、宣揚は實行ならざる可らず。

吾徒は紛々たる議題に就き其得失を蝸牛角上に相爭ふを好まず、唯夫れ我が天職を盡さんと欲するのみ、切言せば絕東の盟主たる我國の任務を遂行せんと欲するものなり然らば如何にして之を遂行せんか、如何にして天職を盡さんか、識者は宜しく井蛙の見を捨てゝ、以て世界の大局に眼を注ぎ韓國刻下の國狀に照らして、沈思熟考せよ。

苟も今日は小局に跼蹐するの時にあらず細事に拘泥するの期にあらず、須らく終局の美果を收めんが爲め全局を大觀して之れが培養の日ならずや。

換言せば我國民が活躍の準備時代は既に過去に屬し、今や眞に活躍の階梯を踏みつゝあるの時なるぞ、嗚呼迅速なる活動を要するの時なる哉、此活動時代に於て、我が對韓政治の衝に當れる執政者は、果して何事をか畫策しつゝある、何事をか實行しつゝある、思ふて此處に到れば、吾徒は我が執政者は何等の理想なく、經綸なくスヤ〳〵と晝寢の眞最中にて、迷夢を東西南北に飛ばし居るの感なきを能はず、晝寢は覺醒の期あるも理想なく、經綸なきに至ては、轉々嘆慨に堪ゑざるものあり、我が當局者は斯くの如くにして政事を行ひ、斯くの如くにして韓國を料理せんと欲するならば、其近き將來の運命や憂ふべく、且つ政治なるものも頗ぶる無趣味となり了せんのみ。

目下韓國民心の統一一素より急務也暴徒鎭定又然り、要するに統監政治に就ては、尚且議すべく論すべきもの一にして足らずと雖ども、吾徒は熟々我統監政治の現狀を見、將來を臆測するに及び、民心の統一、暴徒の鎭定の急務は急務たりと雖ども、猶ほ末なり枝葉なりと放言せん哉、然り枝葉なり末なり果して然らば其根本とは如何、我統監政治の革新にあり、宜しく繁文縟禮の習弊を打破して、以て汎く人材登用の活路を開くに在り、而して非常なる人物を蹶起せしめ、非常なる實力を揮ひ、非常なる本能を發揮し、非常なる事功を爲さしむるにあり、是れ既に陳套なる言の如くなれども我が統監政治の急務としては實に嶄新なる適切なる金科玉條なればなり、古來歷史の證明する所、杓子定規を以て天下經綸を經營したるもの、人材英物をして徒らに茅屋に閑居せしめ、又凡骨と其步調を同ふせしめたる比々皆然らざるは莫し、吾徒が統監政治の革新を疾呼するに際し、玆に先づ人材登用を議する豈に偶然ならんや、英國の殖民地經營は其靑史の紙面を潔白を以て飾り而して沒却すべからざる、否模範を垂れたる事蹟に富む、是れ英國は異例を以て機に臨み時に應じて異材を用ゐたるに因る、然れども、我が當局たるもの我が任務を遂行する上に於て、我が天職を盡す上に於て、敢て彼等の外形を摸糊するの要なきにせよ苟も其精神に至りては、採つて以て顧る所なくして可ならんや。

吾徒は繁文縟禮杓子定規の必ずしも益なしと言はず、然れども其害毒の大なるを思はゞ、之れが矯正の必要なるを感せずんばあらず、我が當局の上長たるもの、此際迷夢より覺醒して、志士を遇する自ら道あるを知らば須らく人材を用ひ、之を督はし、之を鼓勵するに努力せよ其步武の進行と共に俸給の多寡に因つて左往右往する滔々たる旅烏的凡俗の輩、忽ち其跡を絕ち韓國民心の統一暴徒鎭定は茶飯事のみ、我が統監政治の効果期して待つべく、於是初めて國光を乾坤に爛爛たらしむるを得ん。

概して我が當局の對韓方策は其行政權の行使上と言はず、人材登用と言はず押べて毋國の其れに準據するか、然らざれば列邦の精粹を括ぶらんとす以是木偶政治の巷說未だ必ずしも妄ならざらむ、故に相互國狀を異にするを以て常に齟齬を生じ、乖離を釀す、實に當然の結果なるのみ、嗟今日の狀態にして經過せば、何を以て我が精神を韓國に吹込むを得んや、再言せん、韓國の事總て創設的なれ、苟も模糊すべからず、異例を示せ、拘泥する勿れと。

●會寧地方の狀況

北韓會寧地方の狀況を聞くに結氷期間一般に不景氣の狀態に在りしも暖氣に向ふと共に期節物の集散兵營工事に伴ふ諸般の影響は經濟界に活氣を呈し茂山、營林廠は會寧に大規模の製材所を置き陸軍直營の大兵營建築工事材料及び一般の需用に應ずる爲にて木材は筏組となして豆滿江を下し會寧に到達せしめつゝあり此の事業は此の地方を賑はす事頗る多大なるべし和淸洋行は輕便鐵道は從來淸津よりの入荷を主とし當地よりの出荷甚だ少なかりしが韓人中頃日大豆五斗入五百俵を輕鐵により淸津に出荷せしものありて運賃時間等の關係が牛車に優る事を實驗し將來韓人の產物を吸收し得る見込あり前途の製材所が其の製材を販賣するに至らば一層の好況を呈すべし葉錢は僅少の流通ありて一圓に對し六百文の相場にして留は新貨一圓一錢を普通相場とし當地方到る處流通し居れり豆滿江を挾んで南北其の肥瘠の相違實に著しく間島は六鎭地方に比して粟大豆等優に倍額の收穫あり想ふに南方は永年間人爲的に土地を勞らしめたるに因るならん間島の沃野も現狀に放任せば同一の狀態に陷るべし故に南方の瘠地と雖も農事を改良し施肥耕鋤の施設を全ふせば北方間島の沃野に對比し得るに至るべし

●外國貿易旬報

(四月下旬分) 關稅局調查

一月より四月迄の累計

區分	本旬分	本年分	前年分
輸出品價額	四九三、五八九	四、六六四、九三五	四、六三八、二六一
輸入品價額	一、五一〇、九八三	一一、九四四、五一一	一〇、四三七、四〇三
合計	二、〇〇四、五七二	一六、六〇九、四四六	一五、〇七五、六六四

本年貿易額の港別左の如し

本旬分

港名	輸出額	輸入額	計
仁川	六〇、六五〇	七七四、一〇五	八三四、七五五
釜山	一七四、八二六	二六八、四九九	四四三、三二五
元山	三六、六六一	一三五、七二一	一七二、三八二
鎭南浦	七三、一九一	八二、七六八	一五五、九五九
京城	八四五	一三六、三八九	一三七、二三四
群山	七二、一一〇	二七、六七三	九九、七八三
木浦	一三、二四九	二五、〇九一	三八、三四〇
馬山浦	一〇、四一七	二、九七〇	一三、三八七
城津	七、一一六	一八、五六一	二五、六七七
新義州	二七、五〇三	一五、八七三	四三、三七六
淸津	―	三、四四四	三、四四四
計	四九三、五八九	一、五一〇、九八三	二、〇〇四、五七二

次に本年各港の貿易額を前年同期に比較するに左の如し

前年一月より四月迄の累計

港名	輸出額	輸入額	計
仁川	一、二五八、六六七	四、九六三、四七一	六、二二二、一三八
釜山	一、三三一、八八五	二、六六三、九九九	三、九九五、八八四
元山	二四〇、七七九	八八九、七〇二	一、一三〇、四八一
鎭南浦	二九六、二〇一	八〇四、五八七	一、一〇〇、七八八
京城	二、三〇〇	一〇六、七一七	一〇九、〇一七
群山	八七六、四四三	一九八、〇八五	一、〇七四、五二八
木浦	五一四、七八四	一八三、〇八一	六九七、八六五
馬山浦	九六、七四二	四二七、二二二	五二三、九六四
城津	二六、四一二	六七、三三二	九三、七四四
新義州	一〇〇、〇八一	一六二、三二七	二六二、四〇八
計	四、六三八、二六一	一〇、四三七、四〇三	一五、〇七五、六六四

●輸出重要品表 (一月より四月迄の累計)

品名	本旬分	本年分	前年分
米	二五一、八六八	三、二四九、五七九	二、六四四、三二九
大豆及小豆	一〇三、六七二	一、三四七、八七一	一、〇六三、八八九
鮮魚乾魚及鹽魚	三、九六一	一〇〇、一〇〇	六七、六七二
牛皮	一三、七六八	一四一、〇七三	二七〇、三二七
人蔘	―	三六五	六〇七
棉花	八六六	六六三、二八一	―
生牛	二七、〇九六	三〇六、七五〇	九九、九九六

(未完)

●四月中仁川出入船舶

先月中仁川港に出入せる船舶總數は六百十四隻にして其出數十一萬八千九百六噸なりしが今其出入したる内外國々別及び船別して之を示さば左の如し

仁川外國貿易船舶月表

	入港 隻	噸	出港 隻	噸
滊船				
日本船	五五	三九、一〇八	五四	三九、七六八
英國	五	一二、五六七	五	一一、九五九
米國	三	一、六六二	[illegible]	一、六六三
諾威	一	二、四九〇	―	―
計	六四	五五、八二七	六二	五三、三八九
帆船				
日本船	一四	一、一三六	七	五四二
支那ジャンク	―	―	―	―
日本計	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
支那計	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
合計	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

●仁川港沿岸貿易船舶月表

	入港 隻	噸	出港 隻	噸
△滊船				
日本船	二〇	二二二	二一	二八一
韓國船	一八	六一七	一九	五二四
計	三八	八三九	四〇	八〇五
△ジャンク				
日本	一〇九	二、〇六七	八〇	一、五七三
韓國	二八	五〇五	五四	八九六
支那	四	二一	二	九四
計	一四一	二、五九三	一三六	二、五六三
合計	一七九	三、四三二	一七六	三、三六八

社界百面相 (一)

▲李夏榮の生立▼(一)

翠山生

▲急かずと待ちよ時さへ來れば、咲いて見せます床の花と、何にも都々逸の文句かと乙に搦らんで來た譯ではないが、兎角世の中の事といふものは、急がずと油斷なく時さへ待つて居れば、其の人物の如何によりて必ず出世するものである、彼の路傍に佇む汚なき擔軍でも、新聞機械の把つ手に縋る賤しき日雇でも、一朝好運の時機にして廻つて來たならば、忽ちにして旦那、親方、大將、御前と出世するのである。

▲世人は彼の西大門外を出ると、直き其の横手に當つて、宏壯なる煉瓦造りの建物が巍然として半空に聳えて居るのを目擊するであらう、是れ即ち彼の一時韓國政界の花形役者として、飛ぶ鳥も落さん許りの勢であつた元老政治家李夏榮の邸宅で、邸の主人公は今や一と先政界の俗塵を退き、愛婿らく華美な生活に風雲野鶴を友として、悠々閑日月を樂んで居るのである……然り彼れ李夏榮、彼は何んと當世に稀なる好運兒ではあるまいか、咲いて見せます床の梅、色香も床し花の姿の、彼れが今日の榮華の夢は恐らく彼れ自身と雖も其の生立ちの最初に當つては豫め期したることではなからうかと思ふ、吾が儕は今彼れ好運兒が初めからの生立ちの歷史を掻い摘んで爰に述べ、聊か讀者諸君の一粲に供する積りである。

▲彼れが故郷は釜山の片田舍で、父は五房商(雜貨商)である、ダガ至つて小商人で、一家の生計を凌ぐには極めて困難なる所から、時に依ると三度の食事さへも覺束ないこともあつた、從つて母も他所の洗濯又は縫ひ張り杯をして一家を援け、彼れも亦七ツ八ツの年端も行かぬ小さい時分から、甲斐〳〵しくも父に從つて店の品物を提げては附近の村落を賣りにまはつたのである、併し斯く一家擧つて稼いでも家計の困難は依然として渝らず、ソレに父といふが人並勝れての酒好きから、取つた金も取つた金も皆酒代になつて了ふといふ始末、家族の者は殆んど浮ぶ瀨がなかつたのである。

▲斯のやうな事情であるから、兩親は可愛き彼れに學問を授くるなどゝ云ふ事は夢にも出來ず、只日に月に我が子の背丈伸びるを樂んで居つた、併し元來至つて怜悧なる彼は、小兒心にも左う思つた我が家は貧困なれば、他所の子の如く母から小遣を貰つて遊んで居る譯には行かぬが、セメテ學校へ丈は通はして貰ひたく、毎朝近所の遊び友達の誰れ彼れが本を携へて學校に通ふ後ろ姿を打ち眺むるにつけても、心から羨ましく、時折は燈火寂しく搖ぐカンテラの下に獨り衣砧を打つ母の膝に取り縋りては、お母さんお願ひですから學校へ丈遣つて下さいと切にセガんだ事も一度二度ではなかつた。

▲燒野の雉夜の鶴、廣き三千世界に誰れが可愛き我が子を思はむものがあらうか、彼れが兩親とても決して彼れが身の行く末を思はぬのではない、何分なりとも文字も授け、正しき教ゐの庭に遊ばせたいのは山々であるが、淺間しくも慘めなる今際の生計の、到底切なる我が子の望みを叶ふる譯には行かず、のみならず今は其の日〳〵の生計さへも覺束なく、饑餓旦夕に迫るといふ憐れ果敢なき有樣の、何どて夫れどころの場合であらうか、せかるゝ母は熱き涙を片手に抑ねながら彼れを膝に引き寄せ、ソウ言ふた前よりも、言はるゝお母さんの胸はまるで張り裂くるやう、吁之れも天の授けた因果の命、浮世の習ひと諦め呉れよと我子ながら謝した事もあつたのである。

▲春は來り秋は去りて彼れは端なくも爰に十三の歳を迎ゐた、併し一家の困窮は依然として前と渝りはない、茲に於てか聰慧なる彼れは或る夜胸に手を當てゝシミ〳〵考へた、ソシて雄々しくも爰に確乎たる決心を定めたのである、何時迄も斯かる貧困の渦中に漂ひ居らんには、吾が身の出世は勿論、兩親の苦痛も如何許りぞや、如かず吾れ今の時に於て一と先兩親の膝下を離れ、暫く他家に身を委して以て克苦勉勵の功を積み、前途の運命を開拓せんには、左なり〳〵此の良策を措いて他に策わらず、一時も早く決行せんと、此の旨を兩親にも諮り

小說 新不如歸 (十二)

篠原嶺葉著

ソレから手蔓を求めて種々奔走した結果漸く爰釜山の街は、當時日韓貿易會社の支配人たる諫山氏なるものゝ家の飯炊きチョンガーにと住み込んだのである(つゞく)

敏男は莞爾と笑ひながら、

「又結婚の話ですか、だがお母さん猿渡の緣談は此間斷つて下さいと云つて置たぢやありませんか、外の事なら甚麽事有仰つても可厭とは云ひませんが、緣談ばかりは自分の好いた女でないと一日も辛抱が出來ませんからな。はゝゝゝ氣の毒でもどうぞ斷つて下さい。」

「だつて何と云つて斷つて宜いか、あんまり心易い間だから斷りやうが無くて私困つちまつてるのよ。何と云つて斷らうかね、豈夫貴方の宅の島子さんは敏男が氣に入らんからとも云へないし、財產が不足などとも云へないし、出來星紳士だからとは尚云へないし、眞個斷る辭が無いんだものね。しかしお前は島子さんの何點が嫌ひと云ふのだね、私の目からは實に申分のない娘のやうに思はれるがね。」

敏男は相變らず莞爾として

「何處が嫌ひなの此處が可厭など云ふ理ぢやありませんが、實は東京市內でこれより美人は無いと云ふ程の美人を貰はうと思つて一生懸命に探してるんですから若も美人が手に入らなかつた曉は、島子さんでも我慢して貰ひますが、しかし其中必然探し出す意ですから、若も斷る辭にお困りなさるんなら、私が既に約束した女があると云つて下さい、それならば、何にも差支ないでせう。」

「そりや然うだけれど、一体まあ那樣美しい人を貰つて奈何爲やうと云ふのだね。」

「どうすると云つて、貴方、美しい妻が貰へるものなら、何も好き好んでおかめやひよツとこを貰うにも當らないぢやありませんか、昔から能く云ふぢやありませんか、美い女房もつたは一生の德とはゝはゝ。」

「冗談ぢやありませんよ、私本當に猿渡さんに會す顏が無くて困つて了うわ。」と、當惑相な顏すれば、

「だけれども猿渡も餘り圖迂々々しいぢやありませんか生命の惜しい商人なら猿渡のやうな財產家から貰ふのを有難いと思ふか知らないが、私は軍人ぢやありませんか、今にも國家に事が起れば、生命は君國のために棄てなきやならん軀です、何億萬圓財產があつた所が何になります、夫れよりか同じ妻を娶るなら、甚麽貧困者の娘でも關はんから、自分の氣に入ツたのを娶つた方が、財產より何より愉快か知れたものぢやありません、それに財產家といふを鼻にかけて、しかも自分の娘を媒酌人も賴まず貴方へ直接に娶つて下れいなんと云ふは餘り人を馬鹿にしてるぢやありませんか、若も貴方が氣の毒で斷りにくいと有仰るなら、私から嚴然と斷つてやりませう。」

「けれども、何にしてもお父樣の御在世なさる頃から、あゝして心易く暮した間だから然うお前からキッパリと斷はつた日にや猿渡さんだつて滿更宜い心地はしないから自然と氣まづくなつて、後には心易い間も不和になつて了う道理だからまあ〳〵言選いけれど私から程よく挨拶して置くゆゑ。若もお前の氣に入つた女が無い時は、どうぞ貰つてやつて下さい、眞個の所云へば猿渡さんよりも島子さんの方が余ほど熱心なんださうなから。」

「では、貴方にお任せしますから、どうぞ程よく斷つてやつて下さい。」

(二)(第三種郵便物認可) 明治四十一年五月六日 京城新報 (水曜日) 第百四十四號

京城新報

機を逸する勿れ

スラブ民族の勢力にして、一度立たる方針は容易に變ぜず、往昔蒙古に征服せられ、首都キエフ及ニージニーノブゴロッド下に蒙古の戍兵駐屯し、過重なる壓迫を加へ、民力に堪へざる貢税を徵發したりき、然れども彼等は苦痛を忍びつゝ、陽に面從し、陰に復讐心を鼓舞して機會の到るを俟ちたり、機に乘じて反旗を翻したること再三あり、毎に失敗して益々壓迫を加へられたり、然るも彼等は忍耐して服從せり、而も復仇を斷念したるが如き容を以て服從せり、此服從時代に於て、蒙古種族とスラブ種族との雜婚盛に行はれて、蒙古種族の血は頗に注れたり、斯る融和せる間にも、彼等は復仇の念絶えず、蒙古軍撤退の志は瞬時も離れず、爾後數年の後に終に蒙古軍を美事に擊退して、露西亞帝國の基礎を確立するに至れり、之れ歷史の教ゆるスラブ種族の特質なり。

歷史は繰返す、豪邁なる彼得大帝が即位するや、國是を宣言せり曰く、西は君府丹能、東は滿洲に達して、港灣を擴張して此三大國是は、露國歷代の帝王も國民も吞々服膺して、懈まず之が實行に勉む、時に挫折ありと雖も、屈せず之が遂行に勉めつゝあり、露國近世の歷史の明瞭に語る所なり、侵略政策は萬古不變の露國の國是なり他邦侵略はスラブ種族の先天的特質なり我日本との戰に於て大打擊を受け、大連旅順の租借を放棄し、日本の韓國保護權を是認したるは、徒に取りて止むを得ざるの方便のみ、之を以て更に斷念せりと思はゞ大なる誤なり、露國國情及國民の特性を知るものは之を信ぜざるなり、露人笑顏の裏には復仇心を蓄へり、必ずや數年ならずして、捲土重來北韓を壓し、南滿洲を侵迫する時來るべし、后貝加爾、黑龍江洲、沿海洲、等の經營着々歩を進め、哈爾賓に於ける雄大なる施設を見ば思ひ半に過ぎむ露國が韓國に唾涎せるは却て南滿洲に優る戰役前の韓國經營を見よ、中央の外交は優を占め、馬山浦及木浦の土地を頻に購買せむとして焦慮せしは世人の知る處なり、韓國南岸に海軍の根據地を獲得して、對馬海峽を制し以て馬關海峽を壓迫せんとは、彼が十數年來の希望にして、今尚ほ決して之を忘れざるなり、彼が極東に於て恐るゝものは日本のみ、之に對抗せむとすれば勢ひ韓半島に據らざるを得ず、北韓の壓迫は彼が國是を遂行するの手段として、當然來るべきの問題なり、露の國情を知り、露人執拗の性質を解するもの誰か此事あるを疑はむや。

斯く露國南下の情勢を考へ來りて、韓國現時の狀態に及ぶ、時勢の變轉は時に瞬間にして來ることあり、二千有餘年間鮮血勞力忍耐等を以て漸く得たる統治權は、今一層確實に伸張する必要を感ず、帝國の眞勢力を樹立して、如何なる時勢の變轉にも動かざる基礎を築かざる可らず、緩慢なる政策にては、優柔不斷遂として進まざるに於ては、世界の形勢が何時如何に變動を來たして、二千有餘年の懸案問題を亦も泡沫と化する不幸を見ることなしとは斷言すべからず、好事魔多し、決斷なき外交家の失敗は此機微の間にあり、余輩は統監政治の現狀に於て何となく心細き感なき能はず近時露國の東方經營が益々盛なるを看取して、感慨に堪へざるまゝ此言を爲す、當局者何の杞憂する處なき乎。

漢城便り

▲大韓毎日申報發賣頒布禁止事件に關し英國總領事は內部に向つて質問書を送りたる由に御座候當局たる內部は定めし返答に困却被致候此際南山より內部に向て軟風を送らざる樣切望致候

▲昨日のソウルプレスはベッセル申報に關し長々しき議論を試居候論議の主旨は學究的にして要領を得ざるも結局發賣頒布禁止の外には申報退治の目的を果し得ざるに付英國政府を動かして發賣禁止を行はしむるに如かずとの意味に有之候記者も申報退治には至極贊成に御座候へども獅王は兎兒を打つに全力を用ゐるとか申候間他に名策の案出でん事を期待之候

▲此頃の總領事館はいつになく多忙に見受けられ申候煙草トラスト問題と云ひトラスト廣告問題と云ひ中々に忠實に勤かれ居り候此點に付ては外寧內る我官憲などの夢にも及ばざる所にて遂に煙草專賣の件も英國の巧妙なる外交の犧牲となりて取外さるゝことゝ相成申候廣告の有無は官烟の消長に如何なる影響を及ぼし候やは大抵察し得られ候巧妙なる外交の爲には日韓貿易も任韓邦人の利益も一切犧牲とせらるべきものに候や敢而當局に向つて御尋致候

▲參與官中統監の軟弱方針に嫌焉たる者二三有之候との事に及聞候併し彼等は蔭辨慶にて到底面を冒して統監に諫爭する丈の勇氣無き事は記者の惱に保證する所に御座候

▲自衛團の消息杳として聞えず相成申候思ふに今頃暴徒鎭定上同團の奏効は著るしき者ならんと存候同團の近況に付內部の公報は記者の鶴首して待つところに有之候

東京電報

▲東宮武官差遣 東宮武官秋澤好爲氏松島艦沈沒地へ差遣せらる

▲首相外相の伏奏 西園寺首相林外相は同日相携へて參內し重要事件に關する伏奏をなせり(以上四日發)

▲大隈伯の光榮 大隈伯は早稻田大學を起し子弟敎養の功勞不尠に付き今般天皇陛下より金三萬圓を基金として下賜せられたり(五日發)

各地電報

▲暴徒百五十來襲 本日中和郡古生陽面に暴徒約百五十來襲したる旨同郡巡査駐在所より急報あり當地警察署より警部巡査憲兵と共に同地に向け急行せり(四日平壤發)

▲賊魁を殪す 荻原巡査部長の率ふる變裝隊は五月三日安東郡大谷に於て首魁朴爲士を殪したり(四日大邱發)

雜報

●漢城政界の暗流 漢城政界は現內閣永續と極て一段落を告げたる如くなるも裡面暗流は尙ほ激しく流れて停止する模樣なし朴齊純を擔ぎて騷ぎ廻る連中と永宣君を世に出さむとする一派申箕善俞吉濬等何運動を止めず統監府側では之等の運動者に對じて先頃來の行掛り上斷然たる所置もなさずさかにて各政客等何とかして政權に近付かむとして躍起運動をなさむとせり現內閣員殊に總理完用は之等運動者を冷然と見下し空吹く風と嘯き居るとの事なり斯の如くなれば政界は今後尙ほ平靜に至らずと政界通は語る

●大臣會議 韓國各大臣昨日午後一時半より統監官邸に於て大臣會議を開けり

●參與官會議 昨日午前十時より統監府樓上に於て各參與官參集し定例會議を開けり

●道書記官會議休會 昨日は大臣會議參與官會議當日に付休會し明六日は農商工部に參集し同部大臣次官の訓示を聽く筈なり

●英國總領事の質問 內部がベッセルの發行に係る大韓毎日申報の記事に對し治安に妨害ありとて發賣頒布を禁止したることに就て英國總領事より內部に公文を送り其理由を質問したりとの說あり

●各税徵收事務訓令 前經理院の所管なりし京畿道及び忠淸南道にある庖税及び各道にある銅鑛税、鐵鑛税、鍮店税水鐵税を農商工部の所管に移したるに付きこれが税金徵收に就て度支部より左の如き訓令を發したり

一 庖税は庖肆規則に依り銅鑛税、鐵鑛税、鍮店税及び水鐵税は經理院所管財產收入調及經理院十三道甲辰度雜税及從來の慣例を參酌して其税額を調定し租税徵收規定に依りて徵收事務を處理すべし

二 歲入科目は款租税項庖肆税又は銅鑛税以下は雜税として整理すべし

●京畿裁判所の廢止 水原の京畿裁判所は今回之を廢止し京城裁判所に合併することゝなり同裁判所在監中の囚人は京城監獄署に移すと云ふ尙ほ京城裁判所は現今の漢城裁判所を改稱し來る十五日開廳式を擧行する由なり

●官舍建築費請求 各部にては勅奏任官の官舍を建築することゝし之れが建築費を至急支出せんことを內部より度支部へ請求したりと云ふ

●聯合大運動會協議 一昨四日學部は京城內官私立學校長を召集し各學校聯合運動會開催に關し協議會を開けり席上俵次官は別項記載の運動會に關する注意を演說し終りて本年の運動會は訓練院に於て本月十三日擧行する事及び其の商議員として學部より十三名官立學校私立學校より各十名都合三十三名を選定し本日より商議會を開きて運動會の順序方法等を會議する事とせりと云ふ因みに本年の運動會に參加すべき學校は官立十二校私立五十七校修學院工業傳習所大韓醫院敎育部及び未だ學部の許可を經ざる私立學校約三十校にして生徒數は七千名以上に達すべければ當日は非常なる盛況ならん

●預金と貸出し 去月廿五日現在京城第一銀行、五十八、十八、漢湖農工、漢城、大韓天一、韓一の各銀行を通したる預金高は總計八百零九萬六千二百三十八圓にして諸貸出金は四百四十萬三千六百八十五圓なりと

●葉錢買上高 最近一週間に於ける葉錢買上高は五十四圓二十五錢にして引上開始以來の累計十九萬九千百三十七圓六十六錢五厘なり

●約手使途 漢城手形組合に於て取扱ひたる約手の使途區別は糓一萬四千圓米一萬三千八百圓大豆七百圓鹽一千圓布木八千圓驛市二千圓なりと

●第一銀行券發行高 前一週に於ける第一銀行券發行高は九百三十二萬六百圓にして內市場流通高八百五十六萬二千十八圓八十錢手許有高七十五萬八千五百八十一圓二十錢なりと

●仁川各銀行利子引上 仁川に於ける第一銀行を初め十八、五十八の各銀行とも何れも利子二厘方を引上げたり原因は各商店とも夏物仕入の爲め需要多きが所以なりと

●牛皮鑑定價格値下 仁川税關の牛皮鑑定價格の値下問題は過日來より鑑定議員は之れに就て研究中なりしが愈々現鑑定價格は市價に相當せざる者あるを發見したるを以て昨日仁川税關より關税局に打合せをなしたれば今明日中には其の値下を見るべしと云ふ

●韓商と手形の使用 漢城手形組合の某有力者は往訪の社員に語つて曰く△手形組合 ですか政府が商人の保證に立つのですから商人に取つては之れ程結構なことは無い譯です歐米にも日本にも斯かる例はありませんね、而して手形が又△融通手形 でして本來の約手の性質を帶びて居るものは十中七八に過ぎ無いです、一體韓人は未だ約手なるものを知ら無いので商取引の終らぬ中に最う約手を振り出す夫れが又約手が日本同樣の形式ですから韓人は單に約手を作成する事すら未だに頭に入り兼ねて居る樣です是れでは容易に約手が取れるでしよう、併し私の考ねでは約手を一層有益に使用するに至るには大分手間の形式を今少し簡單にしたらばと思ふのですが夫れには韓人が在來使用して來つた△於音 を折衷して完全な者が出來相にも思はれますが如何なる者にしたらば可いか其所迄は未だ考ねて居らないです之れは其の筋から諮問のあつたこともありますから何とか調べて見たい積りです、夫れから爰に一つ奇なる現象があるのです本來から云へば約手を使用すれば夫れ丈け市場の流通貨を減少するが當然ですが韓國は反對で却て市場の△通貨を膨脹 せしめて居るです、之れは其の筈では無いですが假りに韓人が米或は其他の貨物を田舍に買出しに行くには什麼しても手形では不便ですから先づ手形を振り出して通貨に交換して持つて行くです這麼ですから勢ひ手形を振り出した爲めに市場の通貨は却て膨脹して居る誠に奇なる現象である此に一つ喜ばしい事は手形は前にも申した通り融通手形が大部を占めて居りますが併し此の融通した金は多くは△商業の資本 となりて市場に流通する事です之れが商業資本となりませぬと全く妙で無いのであるが融通したる殆んど悉くが米穀なり木綿なり金巾なり或は其他の取引に向つて使用さるゝは先づ宜い事であるのです云々

●京城民團の起債成立 京城民團にて第一銀行より四萬圓起債の交涉中なることは既報せしがいよ〳〵一昨日成立したりと

●署長會議 昨日午後二時より警視廳官房に於て署長會議を開催せり

●京城教育會總會 京城教育會は既報の如く、昨日午後七時より日本人商業會議所に於て開きたり列席者は三浦會頭始め五十餘名にて席上三浦會頭、鮎貝會員其他會員の演說ありて頗る盛會なりし

●京城教育會役員改選 京城教育會總集會は別項の如くなるが役員改選の結果は左の如し

會長 三浦彌五郎　副會長 隈本繁吉
評議員 增口鶴吉　同 荻田悅造
同 本田米吉　同 高橋亨
同 廣田直三郎　同 熊谷賴太郎
同 市原盛宏　同 河合弘民
同 澁谷元良　同 小杉彥治
同 服部暢　同 菊池謙讓
同 和田常市　同 佐藤寬
同 中村再造　同 道家充之
同 山口太兵衛　同 曾我勉
同 三浦直　同 本宿家全
幹事長 高瀨經德　幹事 吉田英三郎
幹事 仁科正胤　同 石原淸熙
同 岡田貢　同 河合精一郎
同 荻田廣吉　同 橫山彌三

尙ほ名譽會員に鶴原定吉君俵孫一君兒玉伯爵津輕伯爵を推薦したりと云ふ

●仁川土地税交渉不調 久しく紛議を重ねつゝありし仁川土地税問題は其後益々不調に陷り遂に一昨夜の地主側委員會議に於て滿場一致民團規定の税率を不當と認め愈々正式の請願書を提出することに決議せり然れども民團に向つては未だ何等の回答を發せざるを以て昨日民長より地主側委員長篠木伊勢松氏に照會狀を發せりと

●第一巡査隊の行動 京畿道麻田方面に在る第一巡査隊第一第一の兩班は二十六日午前六時同郡三角谷松林中に暴徒の步哨三名を發見し其の後方に約二十餘名の集團あるを偵知し戰鬪約一時三十分間にして之を潰走せしめ解隊兵にして砲軍左將と稱する首魁一名を生擒しモーゼル銃火繩銃各一、彈丸二十槍刀其の他書類雜品を鹵獲す暴徒は朴時山を踏へて逃走し追跡其の効なかりしを以て更に村落の搜索をなし方下洞に於て隱匿中の火繩銃軍刀各一挺斗日里に於て豆三斗七升靑太豆八斗九升を發見し雜穀は洞長に保管を命じたりと云ふ

●中和の暴徒 平壤を距る五里中和過古生陽面に賊百五十名來襲し漸次集合すとの情報に接し四日憲兵下士以下五名を派遣せりと平壤分遣隊長細井大尉より電報ありたり

●檢丹面の賊 四月廿九日午後一時頃海州郡檢丹面店洞に於て辛景七の部下吳來三の率ゆる賊徒六名と衝突し其三名を殪し他は山間に遁散せり又た同日午前三時半頃同郡同面四里村々端に於て賊徒三名西方に遁走するを發見し之を追射々擊し其二名を殪し一名は遁走せり我に損害なし韓銃二火藥若干雜品多數を鹵獲す四月廿九日鈴木枝隊に歸順を願出たる賊徒九名あり

●平康の賊徒 平康分遣所憲兵六名は四月三十日午前九時五十分平康郡縣內面龍同洞に於て賊十二名と衝突し一を殪し一を負傷せしむ銃五雜品多數鹵獲す

●興士團讀本發行 興士團にて俞吉濬氏が編纂中なりし同讀本は此程印刷に附し發行せしが同讀本は純諺文にして韓國の現狀を記述し愛國心を鼓吹したるものにて其文章は實に當代に見ざる妙を極めたるものなりと

●石井主計の出張 石井主計常松獸醫は大邱に出張を命ぜられ昨日出發せり

●學生の入京 鹿兒島商業學校生徒十三名は別項記載の牧、最原兩教諭に引率せられ風俗人情地理其他視察の爲め一昨日來京せり

●金泉の市場 慶尙北道に有名なる金泉市場にして物資の集散頗る盛隆を極め從つて諸種の弊害も亦尠からず頃者韓人の設立に係る商業會議所あり各種の市邑に對する課税及市場の賣買に依る手數料の徵收に關し韓人間に異議を申立之を惡税とし十名連署して金泉郡守及巡査駐在所へ請願書を差出せしと郡守は該請願に對し未だ裁決を與へざるを以て駐在巡查は郡守の方針の確定を待ち理非を決せんとて目下郡守の意向を窺ひ居れりと

●近事片々

▲綠陰 漸く深く統監政治は更に發展せず騷蕩として情緒油然何となく惰氣催し來る

▲敵有 ばいざ物見せむ花の影彌生半の眠醒しにとの黃門公の歌思出されて感慨深し

▲人心 を倦ましむるは爲政者の拙常に人心を新にして民を活氣に滿たしむるを要す

▲統監 韓大臣と協議して觀察使會議召集を決す屬僚に何等の協議もなく專行せりと

▲屬僚 一派之が爲め統監の獨斷に不快を感ずと影辨慶は効なし何ぞ進で面詰せざる

▲總理 完用或人に對統監策の巧妙を語りて其位置盤石の如しと暗に誇りしとは眞乎

▲宋秉 畯も亦自己の位置が極て安全にして暗に統監との默契を漏せりと聞く疑はし

▲果し て事實ならば何が爲に斯る事を坊間に漏すか現閣永續を知しむるの意なる乎

▲統監 歸任其無爲政策は痛く現內閣を喜ばせたり完用一派當分反噬するの氣遣なし

▲統監 今次の歸任は吹聽政策を變じて不言實行をなすと事あり相に辨護する者あり

▲此邊 から湧出た說が暴徒鎭定は大英斷を以て一擧討伐に決すとの說頻に傳へらる

▲伊公 に此決心つけば眞に賴母しされど公の性情から考て安心が成兼る傳說眞なれ

▲宮相 允用府中に於ける意張方は常に世人の話頭に上るが此頃一層傲慢の擧ありと

▲允用 銳意勢力を宮中に扶植するも渠に反對の勢力隨分强し一朝變有ば直に乘せむ

▲曾禰 副統監明後日出發東上せらるゝと歸東桂侯に面し如何に伊桂間を融和するや

▲曾禰 子元來山縣直系椿山莊に參して伊公の近狀を語る含雪將軍の辨頰微笑湛へむ

▲米國 人共同して大通信社を設けて統監政治に反抗するの噂あるも或は訛傳ならむ

▲洋鬼 如何に輕躁と雖も豈夫本國國交の意志に反する擧動は爲すまじ有は悔悟せよ

▲露軍 彼斯境城內十二哩の地を占領せりと露國の南下は自然の勢也到底止む可らず

▲松尾 日銀總裁の無能なるは今に始ぬ事ながら財界困難にして良總裁を思ふ當然也

▲藏相 松田松尾總裁共に無能として實業家より指彈を受く祖國財界逼迫の徵候なり

▲手難 の時無能の當局を置く可らず適材を擧て磐根錯節に當らしめよ今則ち其時也

▲常陸 山代議候補を斷念せりと流石に渠は目先が見へる相撲道の好漢自愛して可也

▲直江津の大火 新潟縣直江津の大火は精米所より起り燒失家屋七百戶死傷者あり損害高は七百四十萬圓に上る(五日東京電報)

●滊船値下後の乘客 大阪商船が日本行船客運賃値下を斷行したるより尼ヶ崎郵船兩社も次いで同船賃を値下せるを以て日本よりの旅客にして船便による者非常に增加し大阪商船のみに就いて之れを見るに三月中に來仁したるものは二百四十九名なりしが先月は百名以上增加し更に四百十一名に登りたりと而して仁川より日本に向ひたるもののみに就いて三四兩月を比較せば左の如し

	三月中	四月中
仁川驛	一五九人	一三七人
栢峴	一九六	一八〇
商船	一一三	一二六
郵船	一一	一五
尼ヶ崎	一八	七〇
其他	一	五

●開港紀念寄附取扱 仁川開港紀念會の寄附金は從來委員に於ての取扱ひ居りしが本日より第一、十八、第五十八の三銀行支店に於ても受領することゝし更に其の一部[illegible]

●大橋主事歸任 平壤大邱地方に出張中の赤十字社韓國委員部の大橋主事は一昨夜歸任せり

●敍任(四日附) 統監府通譯官 鳥居[illegible] 各道 同 屬 井上文[illegible]

曾禰副統監上京に付隨行を命ず

公人私人

△野手耐(元山[illegible]長)[illegible]火旅館へ
△[illegible]浦尾へ
△岩中長三郎(統監府技師)巴城館へ
△牧相[illegible](同上)同上
△佐々木正太(全州監督局長)浦尾へ
△山崎情五郎(全州監督局主事)同上

▲直江津の大火　新潟縣直江津の大火は精米所より起り燒失家屋七百戸死傷者あり損害高は七百四十萬圓に上る（五日東京電）

●瀛船値下後の乘客　大阪商船が日本行船客運賃値下を斷行したるより尼ヶ崎郵船兩社も次いで同船賃を値下せるを以て日本よりの旅客にして船便によるもの非常に增加し大阪商船のみに就いて之れを見るに三月中に來仁したるものは二百四十九名なりしが先月は百名以上增加し更に四百十一名に登りたりと而して仁川より日本に向ひたるもののみに就いて三四兩月を比較せば左の如し

	三月中	四月中
仁川驛	一五九八人	一三七八人
鈕峴	一九六	一八〇

●開港紀念寄附取扱　仁川開港紀念會の寄附金は從來募集員に於ての取扱ひ居りしが本日より第一十八銀行店に於ても受領する

●大橋主事歸任　赤十字社韓國委員部の大橋主事は一昨夜

●女房を殺す

原因は嫉妬　被害者は即死　加害者は就縛

人には天有の慈悲心ありて見ず知らずの人が道傍に倒れて苦しむを見ても扶け起すが人情なるに最愛の妻を殺すといふには深き事情のなからずやは絆の仔細は本紙が既に探知する所なれども今尚は豫審中に屬するを以てこれを詳報する能はざるも既に公然顯はれたることどもを記さんに

△加害者　は山口縣熊毛郡室津村字瀬戸町九百一番地の者にして當地花園町二十五番に住し水道人夫となりて糊口を凌げる淺海榮吉といへる者なり

△被害者　は淺海榮吉の内縁の妻にして熊本縣天草郡上津浦村三千五百十九番地別城藤市長女ナツ（明治廿一年一月廿五日生）といひ本年一月花園町の原口某の媒酌により榮吉と結婚し未だ成規の入籍は爲さゞるも公然たる妻たるものなり

△殺意を生せし原因　ナツは人並優れし醜婦にてれまけに鼻聲と來て居るから其の夫たる者より外は手を出す者もあるまじと思はるゝに世間は廣いもので茶人もあると見えて何時の頃よりか密かに情夫を拵ね榮吉の目を忍びて常に合引なし居たるが四五日以前の夜豫ねて約束せしものと見ねて養蠶の教師を呼びに行くと稱し出でんとするより榮吉は彼が情夫と密會の爲めとは神ならぬ身の知る由もなく暗夜なれば提灯を持ち行けといひしに答ねも爲さで出で行き其のまゝ歸り來らざるより榮吉は感づくことありて心當りの向を搜索せしも遂に其の處在を發見せざりしが去る四日の午前十時頃圖らずも花園町の途上にてぱつたりと出會ひしより連れ歸りて此の後は心を入れ替ねてくれよ然れば夫婦睦じく行末長く契らんと諭しけるにナツは其の返答もなさゞるのみか他家へ奉公するほどに三ヶ月間暇をくれよ夫れが出來ずば離縁してくれよと迫り果ては女房に愛憎つかされて離縁も爲し得ぬ阿呆者よ意氣地なしよと女の口よりあられもない罵詈雜言を放てるより堪忍袋の緒を切らし己れ婦貞廢れ恥めと有合ふ出刃庖丁を振り翳せどナツは蠻度胸を据ねてへン斬られるものなら斬つてれ見よれ前の命もなくなるからと尚は反抗の態度を執れるより榮吉も此の一言に逆上せしものと見へて其の息の音留めて呉れんと出刃庖丁を逆手に持ちて抱きつきたり

△殺害の模樣　榮吉は癇癪の頂上に達し今は前後の分別もなく逆手に持ちたる出刃庖丁を左肩胛骨の下三仙米突を隔て第五胸椎より十仙米突左方に突き立て横三仙米突深さ十仙米突肺臟の實質に達する重傷を負はしたれば何かは以てたまるべきナツは口より肺臟を吐き出しつゝ二三歩這ひ出でしが其のまゝ息は絶ねたりける

△死体の有樣　打ち倒れたるナツの死体を見れば銘仙の袷の上に絣の單衣を着し細帶のまゝにて髮は丸髷なるも最初夫婦いさかひして破られしか但しは斷末魔の苦しみに破れしか散亂し居りて創口及び口中より流れし血汐は唐紅に一間の温突は足の踏場もなく血の海を爲し居れり

△近所の騷動　近隣の人々は斯る樣子のあらんとは夢さら知る由もなかりしが只ならぬ悲鳴に驚きて駆行き見ればナツは血汐に染みて打ち倒れ榮吉は其の傍に出刃庖丁を手にしたるまゝ默然たるより中にも神田定十といへるは此のまゝ捨置くべきにあらずと街を飛んで南部警察署に其の旨急訴に及びしなり

△成規の臨檢　南部署にては斯くと聞くより急ぎ電話を以て其の附近なる新町及び永樂町の巡査派出所へ加害者を逮捕すべき命令を傳へ又一面には豫審判事に報告し岡本警部は巡査數名を引率して出張し河村豫審判事もまた出張し醫師をして診斷せしめ成規の檢視を遂げたりける

△加害者捕縛　新町派出所の巡査名塚毎一氏は警察署よりの電話に接し取る物も取敢へず現場に至り見れば淺海榮吉は思案に暮れしか今尚は出刃庖丁を手にせしまゝ座に居りしを以て難なく引つ捕へ岡本警部に引き渡したり

●戀に狂ふ癡漢

▲元巡査の暴行　▲刑事巡査の負傷

片割れ月の影淡く春の姿の朧ろに霞む一昨夜八時頃西署幕華洞居住某方に於て元警務廳巡査部長南部苧洞六統八戸金永九（二十）なるものが西部警察署詰刑事巡査辨能淵に肉切庖丁を以て斬り付け左耳の下に負傷せしめたる椿事こそありたれ左に事の仔細を記さんに從來前記の金永九は當地の在る歷々の兩班の娘に戀ひ焦れ折を伺ひては執着に娘を口解き居りしが落花情あり流水豈に意なからんやの譬の通り終には娘も風に亂るゝ柳と打ち靡き爰に双方無我の境に入りて樂しき戀に耽り居りしが阿漕が浦に曳く網も度重なりては終に人目にも觸れ果ては兩親の耳にも這入るやうになりしより今は男女の兩人も當地に居溜まらずなり互に手に手を取つて斯うなつたら親や兄弟はれろか命迄もと許りに他所に驅け落ちするかそれとも他の家に隱るゝかドノ道斯うしては居られざるより爰に兩人は相談を極め或る夜竊かに家を拔け出でゝ前記の某方にと姿を潛めにき話變つて娘の親は吾が最愛の娘が近頃親の許さぬ戀路に迷ひ其の上若氣の至りから何時如何なる誤ちのあらんかとも一方ならず心を痛め意見せんものと思ふ矢先き突然娘の姿のあらざれば三度の食事も喉に通らず血眼になりて心當りの所を隈なく搜索せしも更に手掛りなく氣もそゞろに朝夕思ひ煩ひ居りしが人の噂に娘は西署幕華洞某方に世を忍び居るとのことを聞きしかば大に安心し胸撫で下ろして早速西部警察署に出頭し娘の歸宅を涙ながらに願ひ入りしかば同警察にても打ち捨て置けず直ちに前記の刑事巡査辨能淵を遣はしたり辨刑事は命を啣み一昨夜八時頃件の潜伏せる家に至りしに案の條兩人はさも睦まじ氣に語ひ居りしが刑事の姿を見るや否や兩人は非常に狼狽し將に外に逃げ出さんとせしが頓て男は取つて返すよと見る間に室内にありし肉切庖丁を振り翳し人の戀路を邪魔するかと許りに切つて掛り終に同刑事の左耳の下に負傷せしめたりしかば刑事も不法な奴と早速にも取つて伏せんと思ひしも悲いかな身に寸鐵を帶びざれば其のまゝ引き返へし斯くと本署に急報せしかば本署よりは正服巡査一名を派せしに這度びは擬きの亂暴に似もやらず衷心悔悟せしと見へて吾れと吾が腹を刺せしも幷はホンノ狂言にて至つて申譯け丈の傷なりしが巡査は直ちに右の男を其の場に引き捕へ本署に連來りたり

●繪畫展覽會開設　目下滯京中なる畫家織田且齋氏は市原第一銀行總支配人以下五十餘名の贊助にて來る十日午後一時より日本人商業會議所に於て氏の作に係る繪畫展覽會を催し抽籤に依りて其繪畫を頒つと云ふ尚は當日は抽籤畫以外に在京の各畫家の作品十數點をも展覽に供すと抽籤券は一葉三圓なりと

●日英韓語講習會開設　今回大和町二丁目に於て日英韓語講習會なるものを開設し日英韓語を教授すると共に別科として國語及び漢文を課し各專門の教師之を授業すると云ふ會員の希望に依り晝夜何時にても教授すると云へば會社官衙等に出勤するものゝ爲めには最も便益なるべし

●本願寺の釋尊降誕會　來る八日は釋尊降誕日に付き本願寺に於ては盛大なる降誕會を執行すると云ふ

●灌佛と爆竹　來る八日は陰曆卯月八日に相當し即ち釋尊降誕の日なるを以て滿韓人は例年盛んに爆竹を行ふ習慣なれば時節柄暴徒と誤ることなからん樣警視廳より夫れ〳〵注意を發したり

●靴泥棒はお尋ね者　旭町一丁目の下宿屋江上虎雄方へ去る四日午後八時頃一名の日本人來り戸口にありし護謨靴一足を竊取し逃走せんとするを引つ捕へ警察署へ連れ行きたるに其の者は豫て竊盜犯にて尋ね中の前田武夫といふ者なりしを以て直ちに留置せられたり

●留主宅を詐る　去る四日午前十時頃京城郵便局通信局青木信防氏の留主宅へ信防氏よりの使と稱し急に西大門及び光化門局へ監査の爲め出張するに付き外套及び劍を渡し呉れよとのことなりと傳へしより留守宅には敢て疑はず劍を渡し外套は見當らざるを以て其の旨を傳言したるが夕刻に至り同氏が歸り來り全く詐取せられしこと判明したるが其男は紋付羽織を着し居たりと

●正誤　拜啓貴社發刊の本月一日第百四十號新聞雜報欄内に質屋の魂丹と題する拙者に關する記事御掲載相成候處右は古賀一郎なるもの物品を詐取して入質致たるより告訴せられ一郎の義母たる野村きくより物品の被害者に對し告訴取下を懇願し其運動中なれば拙者より又々質物詐欺したる損害の點を以て告訴せられては現在の告訴取下に相成も一郎救護の目的は全然水泡に歸し候間官憲より差押に相成りたる質物に對し借用證書差入れて拙者に損害相掛間敷き故告訴提出せず物品は受質と成し呉るゝ樣野村きくより再三の依頼に依り借用證書を受領せしなり元來拙者が告訴を提起せさるもの告訴を取下得るの理なく詐欺物品被害者に對し告訴取下の交渉纏まらざるものと相見へ一郎は入檻致たるより拙者に差入たる證書は今更に目的は達ず支拂ざるべからざるものと相成たるを以て其の支拂を拒絶する爲め口實を設けて拙者を訴出たる者なり實際の事實は全然相違有之候間全文御掲載の上正誤相成度此段及御依頼也　五月三日　京城新報社御中　京城旭町三丁目質商　南源太郎

●平民文庫

▲鐵路以北を日本婦人が通行すると韓人が侮辱する怪しからぬ（憤慨生）▲近頃電話交換手の不親切と云ふたら噺にならぬ嘶中が三十分も續く局長の取締も望む（閉口漢）▲郵便局の切手賣はなせあんなに意張るだろう（丁稚小僧）▲不景氣の極度に達して居留地の人氣何となく物騷になつたわい何とか救濟したいものだ（小心男）▲共同便所に韓人が這入る非常に汚くなる迚日本人は這入れない韓人放糞者を取締つたらよかろうと思ふ（懲りた生）▲何都々逸でも出してくださるか（情歌男）▲何でも出します（記者）

予の見たる商店

風月堂と東京堂

角帶小僧

仁川に尤も大きな菓子屋が二軒ある、一は東京堂一は此處に記す風月堂、東京堂は古く風月堂は新らしい、今此二店を評するに當つて先づ其營業本位が如何に異つて居るかを言はねばならぬ先づ東京堂は成上りだ裸一貫で渡仁し粒々辛苦の結果遂に今日の大商店をなした、風月堂は横濱に於て東京の例の風月堂の支店として第一流の營業をしてたつたが勸むる人ありて仁川に來り東京本店より職人を招致して東京支店で以て一桁上から店を開いた初めはこれが爲めに仁川甘黨の舌に馴れた牡丹餅的品物で固めた基礎は容易に頽れなかつた而して一方風月堂は大なる振出しを以て店を開いたに似ず初めは豫想外に功果を收むる事が出來なかつたがこは以て風月式獨特の菓子がまだ仁川甘黨牡丹餅的時好に適しなかつた爲めで日を經月を經るに從つて漸く風月の眞價が認められて來たのである、今は東京堂が船乘の御用として中流以下の需用者を以て滿足し風月は中流以上の得意とを持つて各營業の繁昌を來して居る（此次は何處）

出診院設置廣告

弊院儀今般患者諸彥の便宜を計り左記の處へ出診院を設け獨乙ドクトルフエールアイゼン氏式療法と日本大醫大谷博士多年苦心研究せられたる最新式療法とを以て花柳病婦人科、外科、眼科の特治部として叮嚀親切を旨とし治療に應じ候

午前宅診 京城旭町三丁目 十全病院

正午宅診 同太平町二丁目 十全病院出診所

一層業務を擴張し敏腕の事務員數名を增聘し迅速且つ懇切に左の事務を取扱ふ

一民刑訴訟の鑑定及諸般代書事務
一貸金賣掛金等に關する債權取立事務
一鑛山及土地の測量製圖並に出願手續
一會社組合銀行等の顧問

明治法律學校出身

京城本町一丁目 增本好三郎事務所（電話取次六二四番）

（懸直なしのまからずや）〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇（御爲筋仕入品）

夏物の新着

尾州しま…一圓九十錢乃至三圓
同上布…二圓半乃至二圓卅錢
久留米縞…一圓五十錢乃至九十錢
同かすり…二圓乃至一圓八十錢
阿波しま…二圓乃至三圓三十錢
伊豫絣
縮緬子
格子モスリン 新柄珍品
白更紗

英子…二圓三十錢乃至五圓四十錢
セル…至八圓…九圓八十錢乃至
アルパカ…三圓五拾錢…四圓十五錢乃至
縞モス…三圓…三圓七十錢
以上は和服用一反分の見積に候

京城本町三丁目 和洋 丸一反物店 電話六三五番

御小賣共前金の外は代金小包郵便に由り發送の儀ご御承知相成度候

（貸付せぬの卸金取引店）〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇（御徳用大安物）

西洋洗濯並ニ洗張開業御披露

今回内地より熟練の職工數名伴ひ參り左記の場所に於て開業仕候間多少に不拘御用命仰付被下度只管奉願上候

當所は老人亭谷川筋に地をトし完全なる工場を設置し井戸を開鑿致候處多量に湧出水質善良加ふるに原料を精撰致技術は親切叮嚀を旨とし日限は努めて迅速に可致候尙各種の洗張物御用も承り申候

五月一日

京城大和町二丁目（統監府官舍東裏）
（加）西洋洗濯所
所主 柄澤行眞

最新流行特別裁縫夏服新荷着

高等出來合洋服は卸小賣共特別廉價を以て御相談に應可申候

京城明治町一丁目 東京塚原支店 原雄吉

自宅病院外勤看護の依頼に應じ申すべく候

今般會員を增加し懇切叮嚀を旨として

京城南山町（日本人倶樂部前）
漢城外勤看護婦會 電話九五二番

入院隨意

●内科 ●小兒科
●外科 ●婦人科
●眼科 ●花柳病

京城南山町三丁目 吉田病院

花柳病専門

龍山老松町 十字病院

院長 帝國醫科大學選科得業 望月憲磨

今般更に眼科部を設け最新式機械を設備し眼科全般の治療をなし又遺憾なきを期す若し夫れ技術巧拙に至つてはなふ既往の治漬に徵せられんことを

鍼灸術開業

昨年中龍山榮町龍山座前ニ於テ營業ヲ始メ御引立ニ預リ候處今般京城御得意樣ノ御招キニ應ジ左記ノ處ニ於テ開業致候間何卒舊ニ倍シ御引立ノ程只管奉懇願候

京城大和町二丁目（義和宮殿前）
鍼灸術 中島惠愛堂

新奇發明 增酒資料

〇〇〇〇一斗の清酒は即座に倍增し（即ち貳斗）となる大金儲的〇〇〇

釀造化學作用の大發明新法なり（附錄）販賣酒直し法、醬油醱倍增法、味淋酒速造法、酢速造法、新酒を古酒に變ずる法、味噌速造法、香竄術上の釀造家及び請賣營業者の一日も缺くべからざる寶典右傳習手續摘要錄郵券四錢封送へ第直に發送す速に利用せよ驚くべき大金儲あること確證す

發元 東京神田五明神町十九番 日本授產館

京都龍文堂製 鐵瓶及風呂釜 清水燒茶器各種

京城本町五丁目一番戶 馬木商店

染物並洗張

迅速叮嚀を旨とし染色艶麗にして確實なるは本工場の特有なり

龍山元町四丁目（元今村跡）桑澤工場

謹告

エジプト莨及マニラ葉卷其他煙草類各種西洋雜貨洋酒洋菓子並に支那糖菓及紅茶六神丸特約販賣 但有名なる上海製造のものに御座候

謹告在韓淸國人

大連安徽頭彩 金壹萬圓 第二十一次（陰曆四月十日陽曆五月十日）開彩
湖北頭彩 金五萬圓 第十八次（陰曆四月二十日陽曆五月廿日）
江南頭彩 金壹萬圓 第七十六次 陰曆四月廿八日 陽曆五月廿七日 開彩
第十七次 陰曆四月十五日 陽曆五月十五日

定價
湖北彩票全紙金七圓五拾錢 小切八拾錢
江南彩票全紙金七圓 小切七拾五錢
大連彩票全紙金壹圓參拾錢
安徽彩票全紙金壹圓參拾錢

確實發賣如遠隔地方御購求希望者御贈金並書留信料添贈急速御用命迄可贈付不誤主顧

西洋雜貨商 源源號
京城永樂町水漂橋二宮街

米國最新式磨擦機械ヲ用ヒ手撰

石拔ニ最モ注意ス

迅速確實

石拔磨擦精米

價格低廉

特別廉價ヲ以テ多少ニ係ハラズ迅速賃搗キノ依賴ニ應ズ

京城西部東幕（麻浦度支部煉化工場右手）
順昌精米所
所主 林炳壽

◉蠟引最新式機械應用◉

京城南山町三丁目本願寺下

統監府 各官衙 勝買組 御用達

阪洗濯店

今般最新式機械を購入致し且つ熟練の職人數名を更に聘し極力大勉强仕候間何卒倍舊の御愛顧御用命の程伏而奉希上候 敬白

松丸太

松材 松薪 材木一切並ニ柳材類

弊店所有の松山より伐り出しに付大勉强可仕候間多少に不拘御用命の程奉願上候

麻浦孔德里大院君墓地
伐材出張事務所

夏物全部荷着

一帽子 洋傘 麻毛メリヤス膝掛
一大和屋新柄縞シヤツ、チクタイ、麻絹沓下
一金銀新形、卸香水、化粧品其他

右荷着精々勉强廉價販賣仕候間多少ニ不拘御用命被下度奉希候

日韓諸官衙御用達大和屋シヤツ特約販賣部御藥クレンシ一手販賣

京城本町二丁目（電話三一二番）
四ケ所洋物店

◎石材販賣

堅牢美觀最も能く建築工事用の目的に適當せる石材產出地として著名なる北署水基洞より玉川洞に亘る數千坪の採石場は今回農商工部大臣の特許を得て向ふ五ケ年間弊店に於て採掘に從事候間何程多數且つ長大なる切石の御注文にても迅速廉價を以て販賣仕可候也

京城旭町三丁目十一番戶
電話（長）二百二十一番
井上久藏

一各種石炭大販賣

大の浦塊炭
豆田塊炭
大辻塊炭
ストーブ用として右三種取寄せ貯炭罷在り御希望に從ひ多少に拘はらず迅速御屆け可申上候

三池粉炭
鍛冶用として貯炭罷在り多少に係はらず御用に應じ可申候

當社一手販賣炭左之通り

三池、田川、伊田、山野、金田、豆田、津波黑、藤棚本洞、大の浦五尺、大の浦三尺、笹原、滿の浦芳雄、大辻、白岩、柚木原、岸嶽等

三井物產合名會社
京城出張所（電話二十六番）
仁川出張所（電話六十三番）

●美術參考●

東京淺草花屋敷ニ於テ興行中の處今般有志の御招キニヨリ渡韓

美術自動人形

京城西小門通（京城新報社橫）ニ於テ每日午前十時ヨリ開場（晝夜共）大人拾錢 小兒五錢

●社會教育●

日本澤庵 味噌醬油製造 乾物荒物鑵詰 銘茶食料雜貨

京城本町五丁目
漬物問屋 大上商店（電話二五一番）

●精白米卸小賣●

石拔 一升ニ付 十七錢
白米 十六錢五厘
十六錢

一斗以上市内には出米速達
俵賣は特別御相談仕り候

月 日

京城旭町一丁目
各位樣 前田精米所

本店 仁川理事廳通（電話三二一番）
支店 京城南山町（電話一〇七番）
原金旅館

月刊朝鮮

每月一回一日發行
定價廿錢
郵稅一錢
一切前金

京城本町二丁目 日韓書房

日本郵船株式會社 瀛船（仁川）出帆廣告 電話十番

仁川海岸通 貨物及船客取扱店 郡回漕會 電話三九番

京城南大門通 巴商店 電話三〇六番

●釜山長崎門司神戶行 山東丸 五月十日 後三時出
●群山、木浦、釜山、門司、神戶、大阪行 第一イハヨ號 五月 日 後三時出
●鎭南浦行 釧路丸 月 日 後三時出
●大連、大沽、牛莊行 高砂丸 五月十四日 後一時出
山東丸 五月廿六日 前五時出
●大連、大沽、牛莊行 酒田丸 五月廿八日 後一時出
●鎭南浦行 第一オハヨー號
●釜山出帆、元山淸津、浦鹽行 弘前丸 五月廿日 後三時出

御注意 御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ船解纜ノ